

～MTDLP 実践研修 運営基準及び発表者要項～

① 1 事例あたりの所要時間は 45 分を標準とする

＜時間配分＞	事例発表・・・・・・・・・・	10 分
	質疑応答・・・・・・・・・・	3 分
	グループ討議・・・・・・・・	20 分
	グループ討議の結果発表・・	7 分
	まとめ・・・・・・・・・・	5 分

② 発表者は決められた書類を作成し、事例検討会時の資料にする

※A.B.の資料に関しては、期日までに事前提出になります

＜準備する資料＞

A. 事例の概略や生活行為向上マネジメントの経過をまとめた抄録

・ A4 2 枚程度にまとめる

B. マネジメントシート・・・A4

・ 生活行為課題分析シートなどを参考資料として加えても良い

C. 発表時は、パワーポイントや keynote 等のプレゼンソフトにて発表

～以下、抄録や発表にあたりまとめるポイント～

事例報告書作成の手引き（生活行為向上マネジメント）

「生活行為の自立を目指して」第 2.2 版を詳しくは参考して下さい

① 報告の目的（200 字以内）

事例報告の目的を述べます。報告の目的に沿って論点を絞り、報告内容の要旨（アウトライン）を示して下さい。具体的には、どのような対象者に、どのような立場で、どのくらいの期間関わって、どのような結果に至ったのか、という点を押さえて記述すると分かりやすくなります。支援が長期にわたる報告の場合はある一定期間に限定して報告する、また、種々の課題に支援した場合は、標的問題（優先順位の高い課題）を中心に報告するようにして下さい。

② 事例紹介（600 字以内）

年齢、疾患名、既往歴、現病歴、MTDLP の対象となるまでの経緯、社会的背景など、対象者の包括ケア方針に関連する個人因子と環境因子について述べて下さい。

特に、対象者の作業歴をここに詳しく示すことが大切です。具体的には、年齢・性別、要介護度などの制度上の認定情報、主疾患名・現病名・既往歴などの医療的な情報といった基本

的信息に加え、家族・住まいなどに関する情報（○人暮らし・マンション○F など）、生活歴、作業歴、本人が大事にしていた作業などです。また、今回の MTDLP 介入前に利用していたサービス状況（可能であれば利用目的も記述）といった MTDLP 介入のために必要な社会的情報を概括し、MTDLP の対象となるまでの経緯を端的に記述する形が分かりやすいでしょう。

この項は、一般情報シート・社会資源情報シートとの整合性が大切です。詳細は一般情報シート・社会資源情報シートでしっかりと記述し、本文ではそれらの情報から要点を抽出し、要約的な記述が必要です。

③ 作業療法評価（800 字以内）

マネジメントシートの生活行為アセスメントの内容を要約し記述することが必要です。

生活行為の目標、検査測定などの評価内容、心身機能・構造、活動と参加、環境因子、予後予測、合意した目標（合意までのプロセス）、自己評価などについて文章で具体的に記述して下さい。

ここが MTDLP 実践の土台であるため、合意目標設定までのプロセスを明確に記述することが必要です。合意目標とは、「本人およびキーパーソンの意向」と「報告者の生活行為アセスメント」とのすり合わせによって「個人因子が反映された達成可能と見込まれる目標」を導き出し、これを本人およびキーパーソンに提案し、合意が得られた目標のことです。合意目標設定までのプロセスは、MTDLP 基礎研修の演習で行ったプロセスに沿って記載する形が、読み手にとって分かりやすいでしょう。

具体的には、対象者およびキーパーソンの生活行為に対する目標、生活行為アセスメント（心身機能・構造、活動と参加、環境の 3 つの側面における阻害因子と強みを要約した記述）、合意目標設定の根拠（なぜその目標を導き出したかという根拠について、予後予測を踏まえ端的に述べる）および合意目標に対する自己評価、の順で記述すると良いでしょう。可能であれば、自己評価時の本人コメントを加筆すると対象者のイメージが分かりやすくなります。

⑤ 作業療法実施計画（600 字以内）

マネジメントシートの生活行為向上プランの部分を整理して、要点を文章で記述して下さい。基本的プログラム、応用的プログラム、社会適応プログラムに分けて、それぞれが何を目的としたプログラムであるか、プログラムのつながりや多職種連携の介入プランを具体的に記述して下さい。いつ・どこで・誰が・何を・どれくらい行うのか、というマネジメントの視点を要所に入れながら実施計画（計画の段階の視点で）を記述します。

⑥ 支援（介入）経過（1000 字以内）

ここで必要な内容は「どのような支援（介入）経過においてどのような効果が出たのか」を的確に記述することです。経過が長い、あるいは支援項目が多い場合は、期間をいくつかの「期」に分けて整理するなど、読者に伝わりやすい書き方の工夫を良いでしょう。対象者に変化を与えたと思われる主要な支援方法は詳細に述べ、読者が実務上で再現できるような情報となるように記述して下さい。プログラムの変更があった場合にはその理由を述べ、予期せぬ変化などについても記述して下さい。対象者の質的な変化は、介入経過で丁寧に記載して下さい。

特に、以下の視点を押さえて介入経過を記述することが重要です。

- ・作業療法実施計画に基づいた介入経過となっているか？
- ・実施したことの羅列ではなく、介入による対象者の変化をきちんと記述できているか？
- ・どの時期に、どんな介入をして、どういう変化が得られたという経過について要約できているか？
- ・時系列がしっかり整理されているか？
- ・介入過程において、プログラムの変更・追加の必要が生じた場合や、予期せぬ事象があった場合は、きちんとその理由を示しているか？
- ・MTDLP 介入によって獲得した生活行為が、その後も継続・拡大・発展できるような連携（連絡レベルに留まらない引継ぎ・申し送りなど）が図られているか？

⑦ 結果（700 字以内）

介入によってもたらされた変化（結果）を記述します。目標が達成されたか、主に、介入によって得られた評価指標（数値）や自己評価の数値の変化と本人のコメントなどを記載して下さい。また、生活行為マネジメントシート・生活行為課題分析シートとの整合性にも留意して下さい。

特に、以下の視点を押さえて結果を記述することが重要です。

- ・課題解決や合意目標の達成が出来たか？
- ・介入時（生活行為アセスメント）と介入終了時の比較が記述されているか？
- ・生活行為アセスメントで記述されていない評価指標が、結果の項で突然出てきていないか？
- ・支援終了時における自己評価およびその実行度・満足度についてのフィードバックが記述されているか？
- ・介入の結果によって、対象者がどのような生活状況に至ったか記述されているか？

⑧ 考察（700 字以内）

「結果」で述べた、対象者の変化に関する解釈を記述します。今回実践した MTDLP は、対象者の標的問題（生活行為に影響する課題）や生活にどのような変化（効果）をもたらしたのか、あるいはもたらさなかったのか、これらはどのような理由によるものかなどを、利用した評価指標の変化との関連から考察して下さい。

そして、今回実践した MTDLP は、対象者の生活にどのような変化をもたらしたのかを踏まえ、対象者にとっての意味や価値という視点、他の生活行為への影響、活動や参加、生活の質といった視点についても可能な限り考察して下さい。

介入終了時点で、対象者にとってなお残された生活課題が整理されているか、また、それらの解決策（支援案）が示されているかは重要です。これらの記述を含め、対象者の 24 時間 365 日連続する生活の展望を記述しましょう。加えて、今回の MTDLP 介入から見えた施設内課題や地域課題についてもアセスメントして下さい。

特に、以下の視点を押さえて考察を記述することが重要です。

- ・ MTDLP 介入による対象者の変化（結果で述べた事項）について分析的にフィードバックできているか？
- ・ 介入終了時点で、対象者にとってなお残された生活課題が整理されているか？
- また、それらの解決策（支援案）が示されているか？
- ・ 今回の MTDLP 介入から見えた施設内課題や地域課題についてもアセスメントされているか？
- ・ 上記 3 点を含めて、対象者の 24 時間 365 日連続する生活の展望が記述されているか？
- ・ 抽象的な表現を多用して、考察の論点がぼやけていないか？
- ・ 文献引用の割合が多すぎて、肝心の対象者が陰に隠れてしまっていないか？